

令和3年7月21日

令和3年度専門高校生グローバルチャレンジ事業
海外オンライン研修
★熊本県世界チャレンジ支援基金活用事業★

専門高校で学ぶ高校生50人が アジアやドイツ等とつながり研修に取り組みます

【研修日】

研修1日目

日時：令和3年7月27日（火）午前10時～午後5時

場所：TKP ガーデンシティ ネストホテル熊本2階「あそ」

研修2日目

日時：令和3年8月2日（月）午前10時～午後5時

場所：TKP熊本カンファレンスセンター9階「はなしょうぶ」

研修3日目

日時：令和3年8月3日（火）午前10時～午後4時

場所：TKP熊本カンファレンスセンター9階「はなしょうぶ」

1 趣旨

本事業は、専門高校生に、県内企業の海外進出先でのインターンシップ、企業視察、現地高校生等の交流活動等を体験させることで、国際的な感覚と広い視野を持ち、将来は本県産業界の発展に寄与するグローバルな人材を育成するものです。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、海外派遣研修の代替案となる取組として現地とオンラインでつなぎ、研修を実施します。

タイとのオンライン研修では、高温多湿の気候はトマト栽培に適しておらず、「おいしくない」「すっぱい」と避けられがちですが、それなら甘くておいしいトマトを生産すれば新しい市場を創り出せると確信し、会社を立ち上げた日本人に話を伺ったり、意見交換を行ったりして農業の魅力や海外での起業、人材育成等について学びます。

また、ドイツとのオンライン研修では、ドイツ政府が主導して、産官学共同で進めている製造業の革新プロジェクト「インダストリー4.0」を体験します。

その他にも、スリランカの高校生との交流や貧困からの自立をテーマとしたフィリピンと結んだ研修、シンガポールのSDGsとエネルギー政策についての研修等、教科横断的に幅広く学ぶこととしています。

2 主催

熊本県教育委員会

3 研修日時

令和3年7月27日（火）午前10時～午後5時

8月 2日（月）午前10時～午後5時

8月 3日（火）午前10時～午後4時

日帰り3日間

4 オンライン研修相手先

シンガポール、タイ、フィリピン、スリランカ、ドイツ

5 研修生徒

高校生50人（男子生徒32人・女子生徒18人）

6 研修内容

	研修名	研修先及び内容等
第1日目 7/27 (火)	事前研修	自己紹介、研修の趣旨
	オンライン研修Ⅰ	キャリアプラン形成セミナー【シンガポール】
	オンライン研修Ⅱ	日本農業の可能性についてのセミナー【タイ】
第2日目 8/2 (月)	オンライン研修Ⅲ	貧困からの自立をテーマとしたセミナーと交流会【フィリピン】
	オンライン研修Ⅳ	同世代とのオンライン交流【スリランカ】
	オンライン研修Ⅴ	アーヘンデモ工場 インダストリー4.0 オンラインプログラム【ドイツ】
第3日目 8/3 (火)	オンライン研修Ⅵ	SDGs×シンガポールのエネルギー政策についてのオンラインセミナー【シンガポール】
	事後研修	グローバルな視点で見た熊本の産業界等についての講演 研修全体の振り返り、グループディスカッション、プレゼンテーション等

7 研修生徒の決定について

県立高等学校及び私立高等学校において、農業、工業、商業、家庭、福祉、水産、看護等専門的に学ぶ生徒へ募集した結果、54人の応募があり、書類審査により、研修生徒50人を決定しました。

8 参考

平成29年度は、専門的に家庭科、福祉科を学ぶ高校生10人が、フランスで本県出身デザイナー田山 淳朗氏のパリコレクション作品展示会場を視察、本県出身一つ星レストラン「PAGES」オーナーシェフ手島 竜司氏のレストランでのインターンシップ、フィンランドで母子支援施設、マリメッコ本店等の視察に取組みました。

平成30年度は、専門的に農業科、水産科を学ぶ高校生14人が、オランダで、スマート農業、水産会社の「北海水産」、世界最大級の花市場アールスメール花市場等での見学や実習体験をしました。

また、ドイツでは現地農家で農業体験、水俣市のお茶生産農家「桜野園」代表 松本和也氏による取引先業者視察と意見交換、園芸専門学校の生徒との交流活動を行いました。

平成 31 年度は、専門的に商業を学ぶ高校生 14 人が、ニューヨーク及びロサンゼルスでの海外研修に取り組みました。ニューヨークでは、本県から海外進出をされている台信（だいのぶ）商店の店舗を視察し、日本とアメリカの流通・小売業の違いを学習しました。また、ニューヨーク市観光局やウォール街の視察研修を行うことで、観光ビジネスや金融についても学びました。

また、ロサンゼルスでは、重光（しげみつ）産業株式会社（味干ラーメン）のロサンゼルス工場や現地の店舗を視察し、日本とアメリカのビジネス展開の違いについて学び、地元高校生との交流活動を行いました。

連絡先：高校教育課産業教育指導班 担 当：新生、小田原 TEL：096-333-2717（内線 6665）
